

5. フォローアップ計画

「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会実施段階環境影響評価書（武蔵野の森総合スポーツ施設）」（平成27年8月 東京都）では、2020年東京大会の開催前、開催後を対象に環境影響評価を実施している。一方、2020年東京大会の開催中における大会の運営等については、現時点では具体的な計画が未定のため、環境影響評価を実施せず、今後の計画の熟度に応じて、別途実施する予定としている。

そのため、本フォローアップ計画書では、2020年東京大会の開催前、開催後を対象としたフォローアップ計画をとりまとめることとし、2020年東京大会の開催中のフォローアップ計画は、環境影響評価実施後に別途実施する予定とする。

5.1 大気等

(1) 2020年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表5.1-1(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.1-1(1) 調査事項(2020年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
調査する事項	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の大気等については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、大気質濃度等を調査する。 ・建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 ・工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度
調査条件の状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の大気等については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、大気質濃度等に関連する基礎条件について調査する。 ・気象の状況(風向・風速) ・建設機械の稼働状況(種類、台数、規格、稼働時間) ・工事用車両の状況(種類、台数、時間帯) ・一般車両の状況(種類、台数、時間帯)
ミティゲーションの実施状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の大気等については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、大気質濃度等に関連するミティゲーションの実施状況について調査する。 〔建設機械に対するミティゲーション〕 ・排出ガス対策型建設機械を使用する計画とする。 ・建設機械の集中稼働を行わないよう、建設機械の効率的稼働に努める計画とする。 ・最新の排出ガス対策型建設機械の使用に努める計画とする。 ・必要に応じて散水の実施、粉じん飛散防止シートの設置等、粉じんの飛散対策を講じる計画とする。 ・良質な燃料を使用する計画とする。 ・アイドリングストップの提示等を行い、不必要なアイドリングの防止を徹底する計画とする。 ・建設機械の稼働にあたっては、不必要な空ぶかし、急発進等の禁止を徹底させる計画とする。 ・建設機械は定期的に点検整備を行い、故障や異常の早期発見に努める計画とする。 ・現場内のパトロールの中で、建設機械による影響を低減するようミティゲーションの実施状況の確認及び指導を行う計画とする。 ・上記のミティゲーションについては、その遂行を徹底するよう、施工業者に対して指導を行う計画とする。

表 5.1-1(2) 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況 (つづき)	[工事用車両に対するミティゲーション] ・工事用車両に付着した泥土等が場外に飛散しないよう、出入口付近に洗車設備を設けて必要に応じてタイヤ等の洗浄を行う等、土砂・粉じんの飛散防止に努める計画とする。 ・低公害型の工事用車両を極力採用し、良質な燃料を使用するとともに、不必要なアイドリングの防止を徹底する計画とする。 ・工事用車両の出入口付近の路面の清掃に努める計画とする。

2) 調査地域

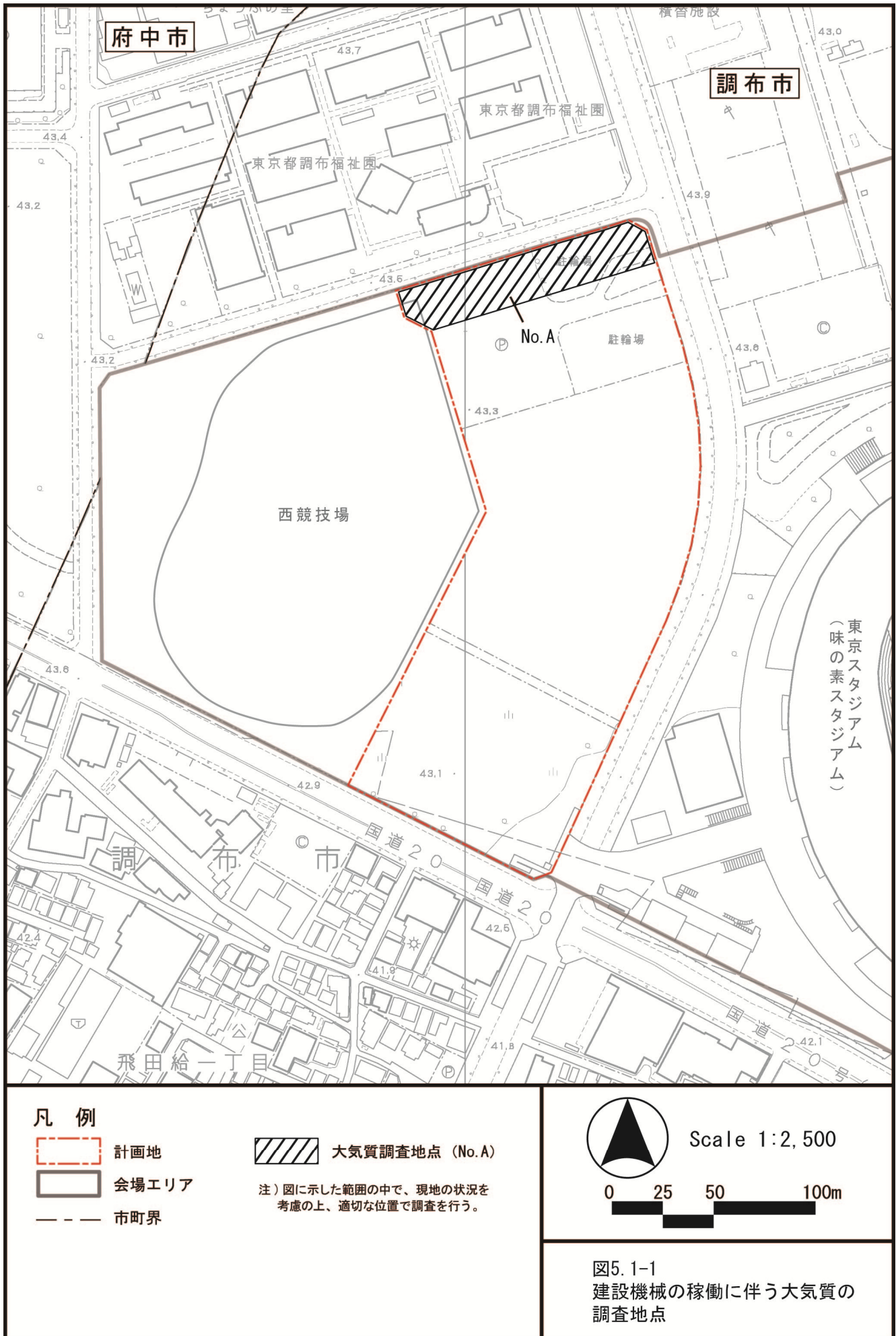
調査地域は、建設機械の稼働、工事用車両の走行により、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中の濃度に影響が及ぶと考えられる、計画地及びその周辺とする。

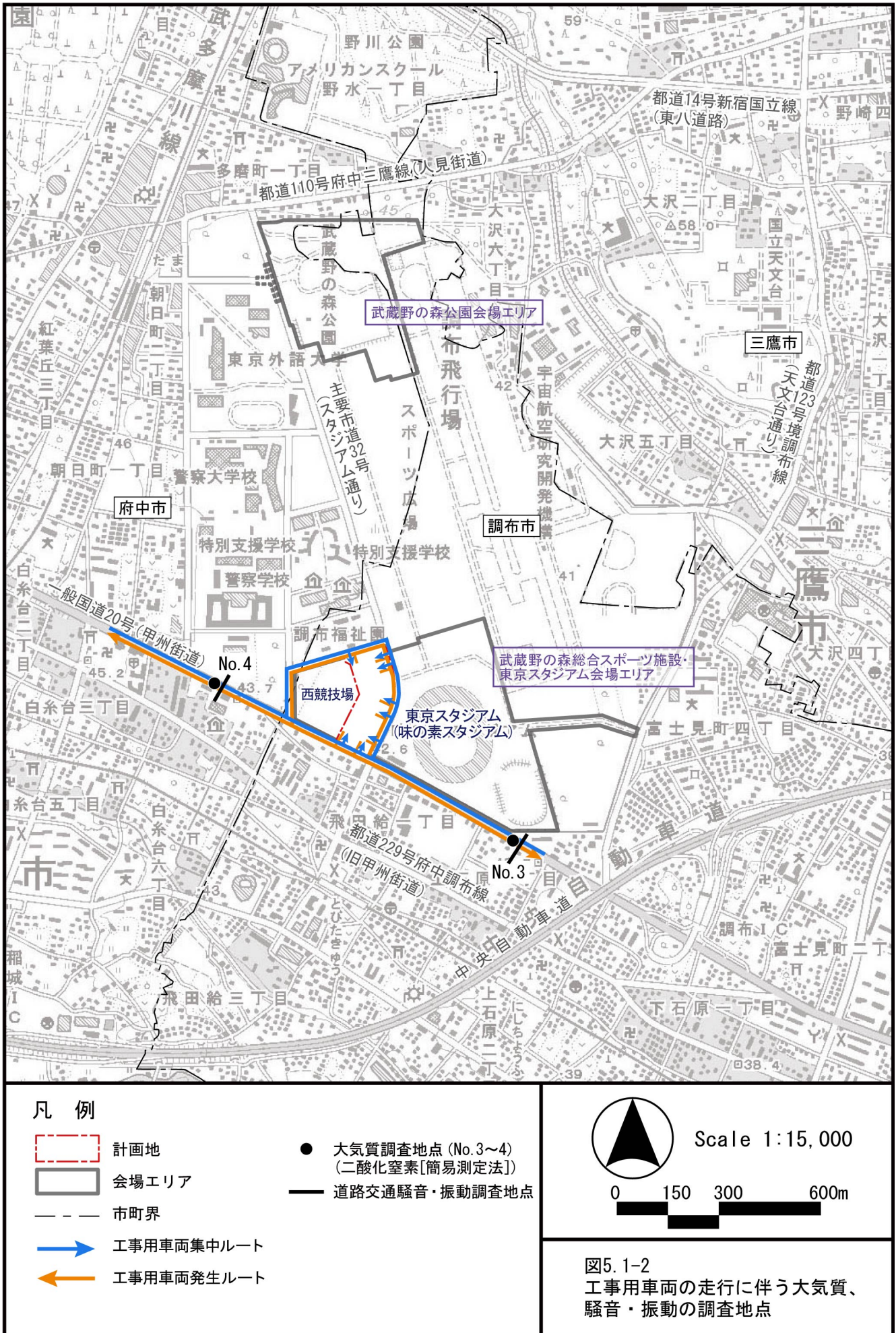
3) 調査手法

調査手法は、表 5.1-2 に示すとおりである。

表 5.1-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度
調査時点		今後、建設機械の稼働に伴う大気汚染物質の排出量が最大となる時点(工事着工後26か月目)とする。	今後、工事用車両台数が最大となる時点(工事着工後26か月目)とする。
調査期間	調査する事項	代表的な1週間とする。	
	調査条件の状況	【気象の状況】 「調査する事項」と同一期間とする。	
		【建設機械の稼働状況】 「調査する事項」の調査期間内の代表的と考えられる1日とする。	【工事用車両、一般車両の状況】 「調査する事項」の調査期間内の代表的と考えられる1日とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事の施行中の随時とする。	
調査地点	調査する事項	環境に特に配慮すべき施設に近い計画地北側敷地境界付近の1地点(図5.1-1に示す地点No. A)とする。	工事用車両走行ルート上の2地点(図5.1-2に示す地点No. 3~4)とする。
	調査条件の状況	【気象の状況】 アメダス府中観測所(風向、風速)及び東京管区気象台(雲量及び日射量)とする。	
		【建設機械の稼働状況】 計画地内とする。	【工事用車両の状況】 図5.1-2に示す工事用車両の出入口とする。 【一般車両の状況】 工事用車両走行ルート上の2地点(図5.1-2に示す地点No. 3~4)とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	
調査手法	調査する事項	◎ 二酸化窒素 ・ No. A 「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月環境庁告示第38号)に定める方法(JIS B 7953)) ◎ 浮遊粒子状物質 ・ No. A 「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月環境庁告示第25号)に定める方法(JIS B 7954)	◎ 二酸化窒素 ・ No. 3~No. 4 簡易測定法(PTIO法) ◎ 浮遊粒子状物質 既存資料並びに工事用車両台数の整理による方法とする。
		【気象の状況】 アメダス府中観測所(風向、風速)及び東京管区気象台(雲量及び日射量)の観測値の整理による方法とする。	【工事用車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)とする。
	調査条件の状況	【建設機械の稼働状況】 現地調査(写真撮影等)及び関係資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	【一般車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	





(2) 2020 年東京大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.1-3 に示すとおりである。

表 5.1-3 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 関連車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 ・ 熱源施設の稼働に伴い発生する二酸化窒素の大気中における濃度
予測条件の状況	・ 気象の状況(風向・風速) ・ 関連車両の状況(種類、台数、時間帯) ・ 一般車両の状況(種類、台数、時間帯) ・ 熱源施設の状況(施設の種類、諸元等)
ミティゲーションの実施状況	[熱源施設の利用に関する保全のための措置] ・ 燃料には排気ガス中の汚染物質濃度が低い都市ガスを用いる。 [関連車両に関する保全のための措置] ・ 施設利用者に対して、極力公共交通機関を利用するように周知する。

2) 調査地域

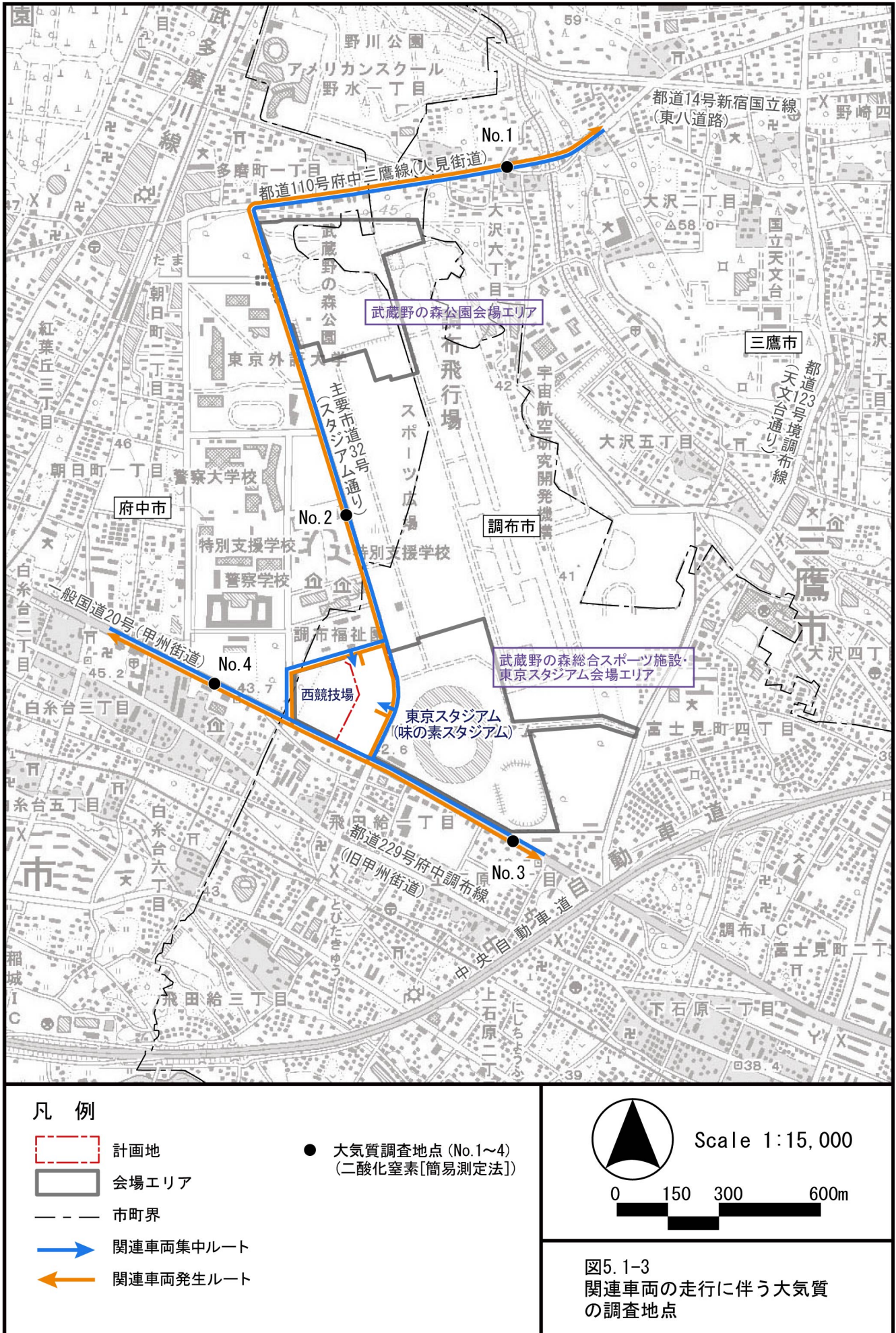
調査地域は、関連車両の走行、熱源施設の稼働により、二酸化窒素又は浮遊粒子状物質の大気中の濃度に影響が及ぶと考えられる、計画地及びその周辺とする。

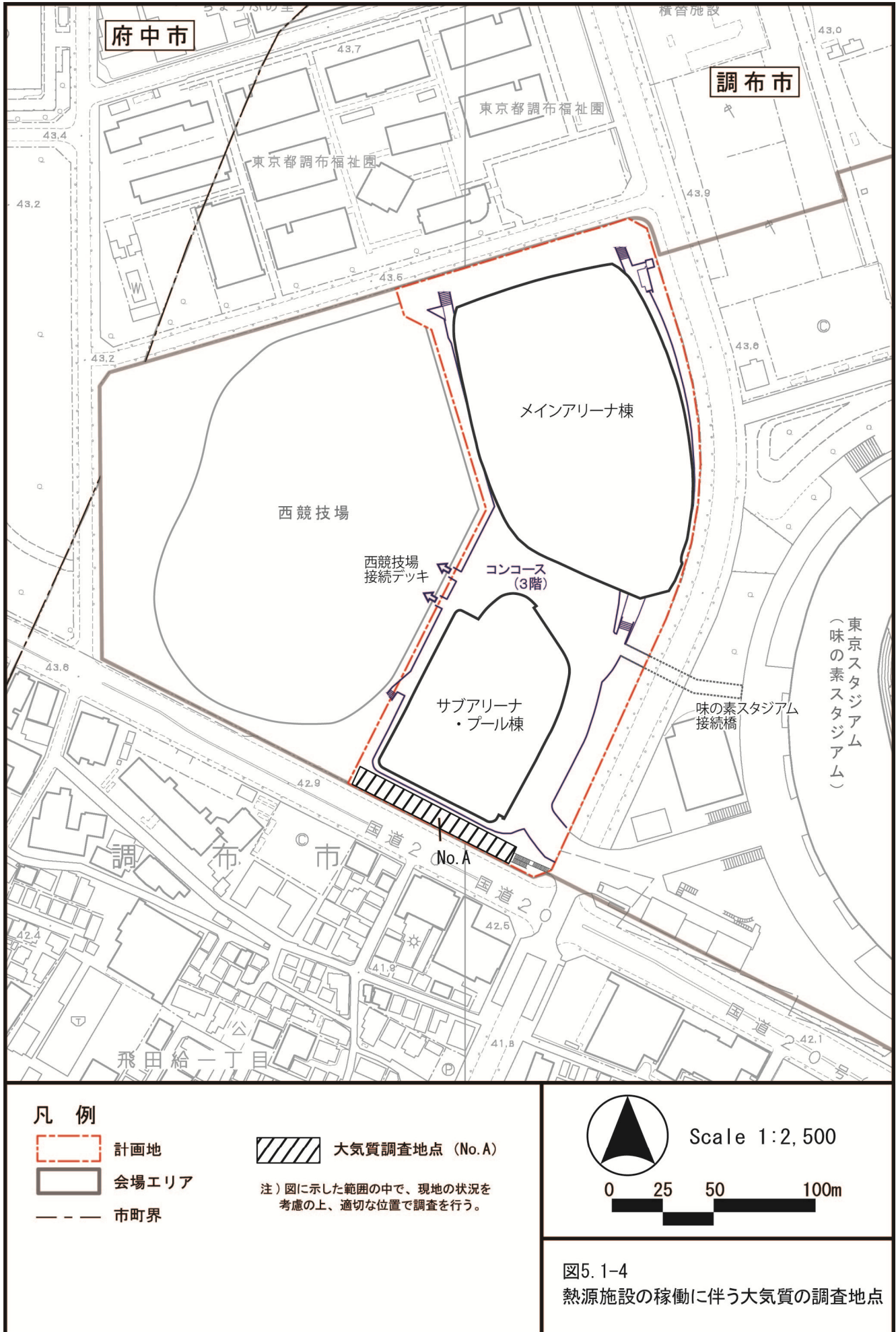
3) 調査手法

調査手法は、表 5.1-4 に示すとおりである。

表 5.1-4 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		関連車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気における濃度	熱源施設の稼働に伴い発生する二酸化窒素の大気における濃度
調査時点		2020年東京大会の開催後(平成33年度)とする。	
調査期間	予測した事項	代表的な1週間とする。	
	予測条件の状況	【気象の状況】 「予測した事項」と同一期間とする。	
		【関連車両、一般車両の状況】 「予測した事項」の調査期間内の代表的と考えられる平日の各1日とする。	
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。	
調査地点	予測した事項	計画地周辺の4地点(図5.1-3に示すNo.1～4)とする。	計画地周辺の1地点(図5.1-4に示すNo.A)とする。
	予測条件の状況	【気象の状況】 アメダス府中観測所(風向、風速)及び東京管区気象台(雲量及び日射量)とする。	
		【関連車両の状況】 関連車両の出入口とする。 【一般車両の状況】 計画地周辺の4地点(図5.1-3に示すNo.1～4)とする。	【熱源施設の状況】 計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	計画地とする。
調査手法	予測した事項	◎ 二酸化窒素 ・ No.1～4 簡易測定法(PTIO法) ◎ 浮遊粒子状物質 既存資料並びに関連車両台数の整理による方法とする。	◎ 二酸化窒素 ・ No.A 「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月環境庁告示第38号)に定める方法(JIS B 7953))
	予測条件の状況	【気象の状況】 アメダス府中観測所(風向、風速)及び東京管区気象台(雲量及び日射量)の観測値の整理による方法とする。	
		【関連車両、一般車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)及び関連資料(駐車場管理資料等)の整理による方法とする。	【熱源施設の状況】 関連資料(施設の種類、諸元等)の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	





5.2 生物の生育・生息基盤

(1) 2020 年東京大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.2-1 に示すとおりである。

表 5.2-1 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・生物・生態系の賦存地の改変の程度 ・新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度
予測条件の状況	・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・計画地北側のサクラ（ソメイヨシノ）は保存する計画としている。 ・計画地南側の一般国道20号（甲州街道）沿いのイチョウの既存樹木を場外で仮養生を行ったうえで緑化樹として活用する。 ・地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽する。 ・コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行う計画としている。この人工地盤植栽や屋上緑化については、維持管理計画を定めて生物の生育・生息基盤が維持されるよう適性な管理を実施する。 ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。

2) 調査地域

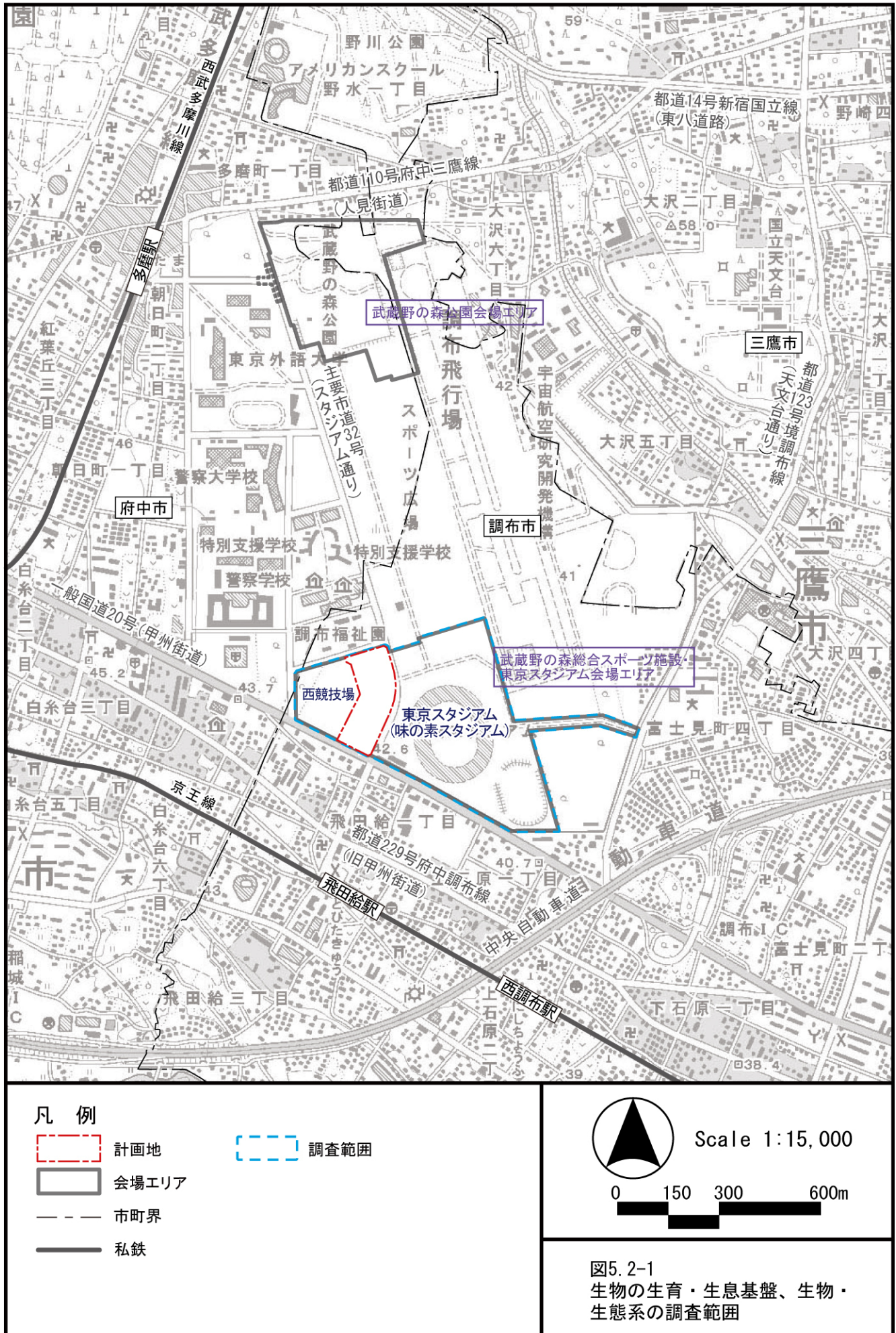
調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.2-2 に示すとおりである。

表 5.2-2 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		・生物・生態系の賦存地の改変の程度 ・新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度
調査時点		2020年東京大会の開催後(平成33年度)とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺(図5.2-1)とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(計画地及びその周辺の任意踏査)による植生の状況を整理する方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。



5.3 水循環

(1) 2020 年東京大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.3-1 に示すとおりである。

表 5.3-1 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・地下水涵養能の変化の程度 ・地下水の水位及び流動の変化の程度
予測条件の状況	・雨水流出抑制対策の状況 ・地下構造物の状況
ミティゲーション の実施状況	・雨水浸透貯留施設は、調布市等の関連機関との協議に基づき、必要な雨水浸透量を確保する。 ・雨水浸透貯留施設等を設置することにより地下水涵養能の確保を図る。 ・排水設備計画確認申請書を調布市に提出し、浸透と貯留による方法で雨水流出抑制を行う計画とする。 ・水の有効利用促進要綱に基づき、雑用水利用・雨水浸透計画書を提出する。雑用水利用施設及び雨水浸透施設の計画、構造、管理等については、関係法令等の規定に従い適正に行う。 ・計画地内の地上部に緑地を配置することにより、雨水浸透による地下水涵養に配慮するとともに、植栽の蒸散効果とあわせてヒートアイランド対策に寄与することが期待される。 ・雨水浸透貯留施設等については、地下水涵養能が十分に発揮されるよう、設置の際に適切な配置を検討する。設置後は、定期的に点検を行い、その機能の維持・回復を図る計画とする。 ・メインアリーナの屋根に降る雨水を集水し、トイレ洗浄水や消防利水に利用することにより、水の有効利用を図る計画とする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.3-2 に示すとおりである。

表 5.3-2 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		・地下水涵養能の変化の程度 ・地下水の水位及び流動の変化の程度
調査時点		2020年東京大会の開催後(平成33年度)とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地内とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.4 生物・生態系

(1) 2020 年東京大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.4-1 に示すとおりである。

表 5.4-1 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 ・陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 ・生育・生息環境の変化の内容及びその程度 ・生態系の変化の内容及びその程度
予測条件の状況	・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・計画地北側のサクラ（ソメイヨシノ）は保存する計画としている。 ・計画地南側の一般国道20号（甲州街道）沿いのイチョウの既存樹木を場外で仮養生を行ったうえで緑化樹として活用する。 ・地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽する。 ・コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行う計画としている。 ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.4-2 に示すとおりである。

表 5.4-2 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		・陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 ・陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 ・生育・生息環境の変化の内容及びその程度 ・生態系の変化の内容及びその程度
調査時点		2020年東京大会の開催後(平成33年度)とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺(図5.2-1(p.38参照))とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.5 緑

(1) 2020 年東京大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.5-1 に示すとおりである。

表 5.5-1 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度 ・緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度
予測条件の状況	・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・計画地北側のサクラ（ソメイヨシノ）は保存する計画としている。 ・計画地南側の一般国道20号（甲州街道）沿いのイチョウの既存樹木を場外で仮養生を行ったうえで緑化樹として活用する。 ・地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽する。 ・コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行う計画としている。 ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.5-2 に示すとおりである。

表 5.5-2 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		・植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度 ・緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度
調査時点		2020年東京大会の開催後(平成33年度)とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺(図5.2-1(p.38参照))とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.6 騒音・振動

(1) 2020 年東京大会の大会開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.6-1 に示すとおりである。

表 5.6-1 調査事項(2020 年東京大会の大会開催前)

区 分	調査事項
調査する事項	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の騒音・振動については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、工事の実施に伴う騒音・振動を調査する。 ・建設機械の稼働に伴う建設作業騒音 ・建設機械の稼働に伴う建設作業振動 ・工事用車両の走行に伴う道路交通騒音 ・工事用車両の走行に伴う道路交通振動
調査条件の状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の騒音・振動については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、工事の実施に伴う騒音・振動に関する基礎条件について調査する。 ・建設機械の稼働状況(種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置) ・工事用車両の状況(種類、台数、時間帯) ・一般車両の状況(種類、台数、時間帯)
ミティゲーションの実施状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の騒音・振動については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、工事の実施に伴う騒音振動に関するミティゲーションの実施状況について調査する。 〔建設機械に対するミティゲーション〕 ・低騒音型建設機械の採用に努める計画とする。 ・仮囲い(高さ 3m)を設置する計画とする。 ・建設機械の集中稼働を行わないよう、建設機械の効率的稼働に努める計画とする。 ・作業時間及び作業手順は、周辺に著しい影響を及ぼさないように、事前に工事工程を十分検討する計画とする。 ・アイドリングストップの提示等を行い、不必要なアイドリングの防止を徹底する計画とする。 ・建設機械の稼働にあたっては、不必要な空ぶかし、急発進等の禁止を徹底させる計画とする。 ・建設機械は定期的に点検整備を行い、故障や異常の早期発見に努める計画とする。 ・騒音・振動の発生を極力少なくするよう、最新の低騒音型建設機械の採用及び低騒音・低振動な施工方法の採用に努める計画とする。 ・現場内のパトロールの中で、建設機械による影響を低減するようミティゲーションの実施状況の確認及び指導を行う計画とする。 ・上記のミティゲーションについては、その遂行を徹底するよう、施工業者に対して指導を行う計画とする。 〔工事用車両に対するミティゲーション〕 ・規制速度を遵守する計画とする。 ・低公害型の工事用車両を極力採用し、不要なアイドリングの防止を徹底する計画とする。 ・資材の搬出入に際しては、走行ルートを検討、安全走行等により、騒音及び振動の低減に努める計画とする。

2) 調査地域

調査地域は、建設機械の稼働、工事用車両の走行により、騒音・振動による影響が及ぶと考えられる、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

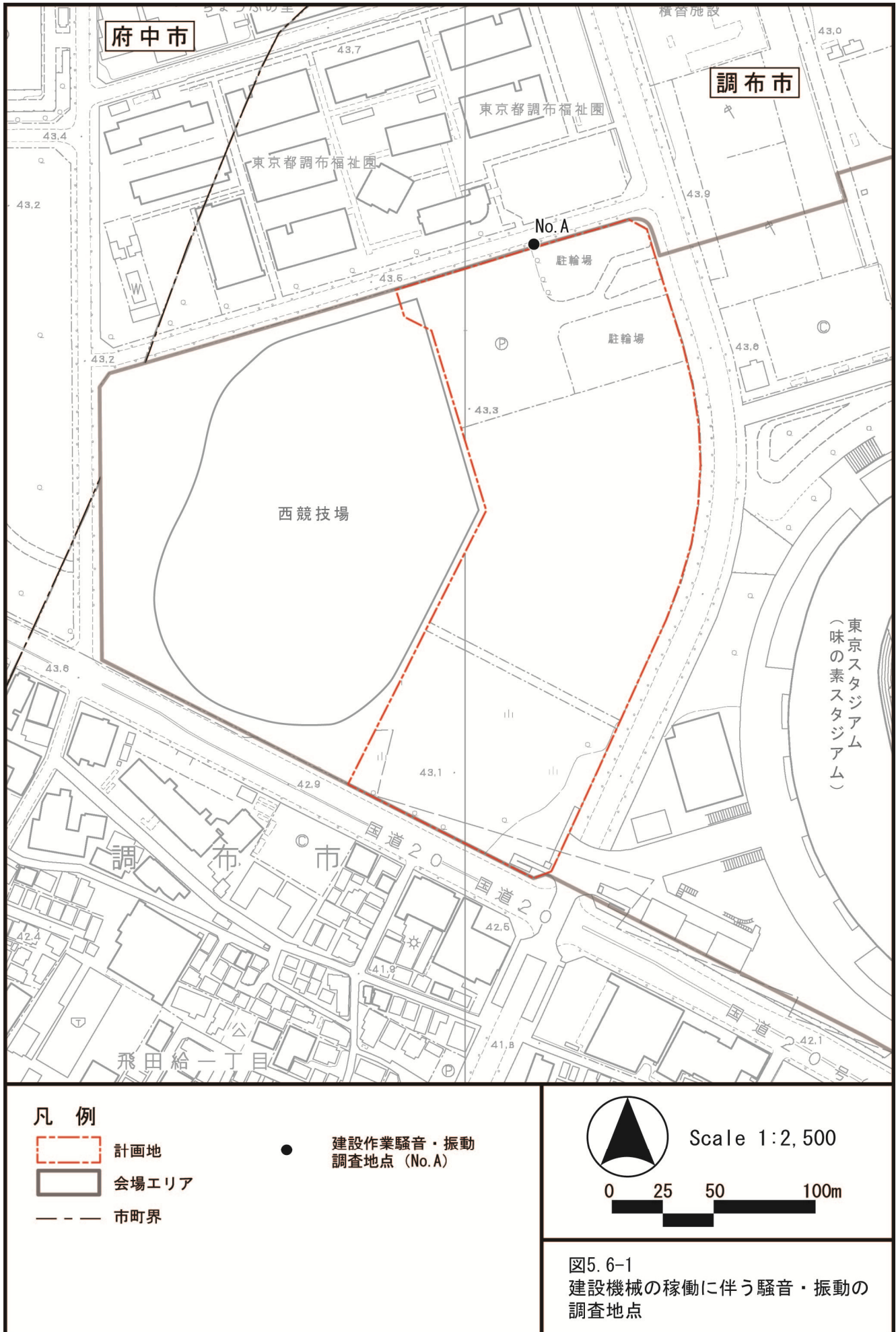
調査手法は、表 5.6-2(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.6-2(1) 調査手法(2020 年東京大会の大会開催前)

調査事項		建設機械の稼働に伴う建設作業 騒音	建設機械の稼働に伴う建設作業 振動
調査時点		建設機械の稼働による騒音・振動が最大になると予想される時点 (工事着工後26か月目)とする。	
調査期間	調査する事項	代表的な1日の内、建設機械の稼働時間を含む時間帯とする。	
	調査条件の状況	【建設機械の稼働状況】 「調査する事項」と同一期間とする。	
	ミティゲーション の実施状況	工事の施行中の随時とする。	
調査地点	調査する事項	環境に特に配慮すべき施設に近い計画地北側敷地境界付近の1地点(図5.6-1に示す地点No. A)とする。	
	調査条件の状況	【建設機械の稼働状況】 計画地内とする。	
	ミティゲーション の実施状況	計画地及びその周辺とする。	
調査手法	調査する事項	「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例施行規則」に定める測定方法(JIS Z8731)及び「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」(昭和43年厚生・建設省告示第1号)に準拠し、騒音レベルの90%レンジの上端値(L_5)を測定する。	「都民の健康と安全を確保する条例施行規則」に定める測定方法(JIS Z8735)及び「振動規制法施行規則」(昭和51年総務省令第58号)に準拠し、振動レベルの80%レンジの上端値(L_{10})を測定する。
	調査条件の状況	【建設機械の稼働状況】 現地調査(写真撮影等)及び関係資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	
	ミティゲーション の実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	

表 5.6-2(2) 調査手法(2020 年東京大会の大会開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴う道路交通騒音	工事用車両の走行に伴う道路交通振動
調査時点		工事用車両の走行台数が最大となる時点(工事着工後26か月目)とする。	
調査期間	調査する事項	代表的な1日の内、工事用車両の走行時間を含む昼間(8時～19時)及び夜間(19時～翌8時)とする。	
	調査条件の状況	【工事用車両、一般車両の状況】 「調査する事項」と同時期とする。	
	ミティゲーションの実施状況	工事の施行中の随時とする。	
調査地点	調査する事項	工事用車両走行ルート上の2地点(図5.1-2(p.31参照))に示す地点No.3～4)とする。	
	調査条件の状況	【工事用車両の状況】 図5.1-2(p.31参照)に示す工事用車両の出入口とする。 【一般車両の状況】 工事用車両の走行ルート上の2地点(図5.1-2(p.31参照))に示すNo.3～4)とする。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	
調査手法	調査する事項	「騒音に係る環境基準について」(平成10年9月環境庁告示第64号)に定める方法(JIS Z8731)に準拠し、騒音レベル(等価騒音レベル： L_{Aeq})を測定する。	「振動規制法施行規則」(昭和51年総務省令第58号)に定める測定方法(JIS Z8735)に準拠し、振動レベルの80%レンジの上端値(L_{10})を測定する。
	調査条件の状況	【工事用車両、一般車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	



5.7 日 影

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.7-1 に示すとおりである。

表 5.7-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度 ・冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度
予測条件の状況	・計画建築物の状況(位置、形状、高さ等)
ミティゲーションの実施状況	・計画地北側の厚生医療施設への日影の影響を低減するため、計画建築物は北側の敷地境界から一定の距離をセットバックする他、建物北側を徐々に低くした構造とする。

2) 調査地域

調査地域は、冬至日の真太陽時における 8 時から 16 時までに、計画建築物による日影が生じると想定される範囲とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.7-2 に示すとおりである。

表 5.7-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度	冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度
調査時点		施設完成後とする。	
調査地点	予測した事項	計画建築物の日影が及ぶ地域とする	計画地周辺の 1 地点(図5.7-1に示す地点No. a)とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。	
調査手法	予測した事項	関連資料(竣工図等)に基づき、時刻別日影図及び等時間日影図を作成する。	天空写真を撮影し、これに時刻点及び太陽軌道を記入する方法による。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(竣工図等)の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(竣工図等)の整理による方法とする。	

(2) 2020 年東京大会の開催後

2020 年東京大会開催後における計画建築物による日影の状況は、開催前と同様であるため、調査は開催前に兼ねることとする。



5.8 景 観

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.8-1 に示すとおりである。

表 5.8-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度 ・ 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度 ・ 貴重な景勝地の消滅の有無又は改変の程度 ・ 圧迫感の変化の程度 ・ 緑視率の変化の程度 ・ 景観阻害要因の変化の程度
予測条件の状況	・ 計画建築物の状況(配置、形状、高さ等) ・ 緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・ メインアリーナ軒高やデッキレベルを隣接する東京スタジアム(味の素スタジアム)と揃え、スカイラインの調和を図る。 ・ 計画建築物の色彩等については、「東京都景観計画」の景観形成基準の内、地区ごとに色彩の考え方や基準等について定めた「東京都景観色彩ガイドライン」を踏まえ、N7.0及びN7.5の色彩を主とし、周辺の建築物との調和を図る。 ・ 桜並木を始めとした既存樹木の保全など周辺の緑との調和を図るとともに、3階コンコースの高木や低木・地被類植栽、サブアリーナの屋上緑化、メインアリーナの壁面緑化等により、隣接する西競技場の緑地との連続性を確保した植栽計画とする。 ・ 飛田給からのアプローチに対し、サブアリーナ・プール棟、メインアリーナ棟と段階的に建物高さが高くなる計画とし、かつペDESTリアンデッキもセットバックを行い建物の圧迫感を軽減する。 ・ 計画地北側の福祉施設に配慮し、建物の高さを徐々に低くするとともに、セットバックや樹木の設定により圧迫感を軽減する。 ・ 隣接するオープンスペースは積極的に緑化に努める。 ・ 緑化にあたっては、樹種の選定に配慮し、周辺の景観との調和を図るとともに、植物の良好な生育が可能となるよう、植栽地盤を工夫する。

2) 調査地域

調査地域は、計画建築物を眺望することができる計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

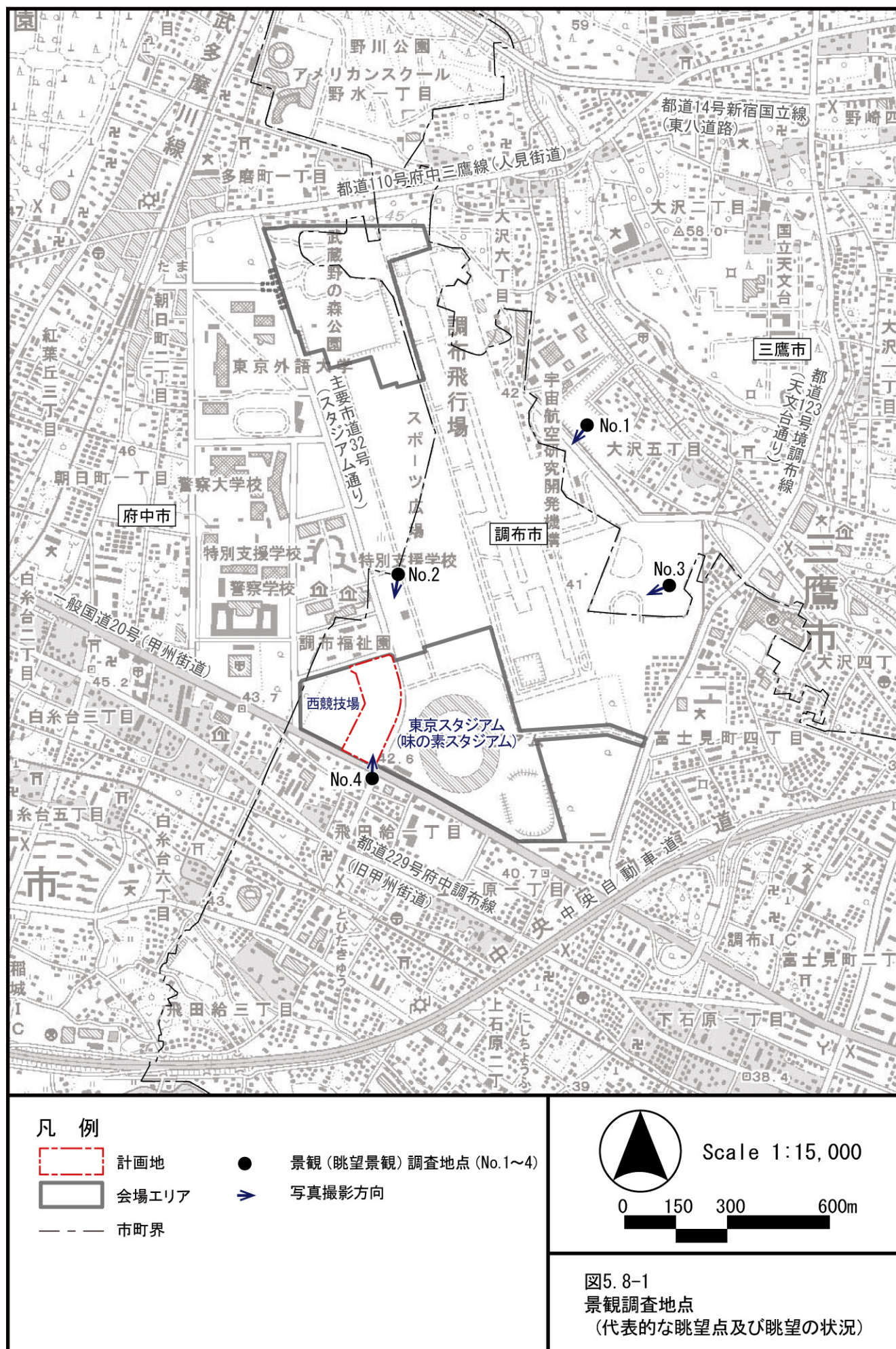
調査手法は、表 5.8-2(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.8-2(1) 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		主要な景観の構成要素の 改変の程度及びその 改変による地域景観の 特性の変化の程度	代表的な眺望地点から の眺望の変化の程度	貴重な景勝地の消滅の有 無又は改変の程度
調査時点		施設完成後とする。		
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の 4 地点(図5.8-1に示す地点 No. 1～4)とする。	計画地内とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。		
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。		
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とする。		関係資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とする。		関係資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とする。		関係資料の整理による方法とする。

表 5.8-2(2) 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		圧迫感の変化の程度	緑視率の変化の程度	景観阻害要因の変化の程度	
調査時点		施設完成後とする。			
調査地点	予測した事項	予測地点と同様の 1 地点 (図 5.8-2 に 示 す 地 点 No. a) とする。	予測地点と同様の 4 地点(図5.8-1に示す地点No. 1～4)とする。		
	予測条件の状況	計画地内とする。			
	ミティゲーション の実施状況	計画地内とする。			
調査手法	予測した事項	天空写真を撮影し、形態 率を算出する方法とす る。	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較す る方法とする。		
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とする。			
	ミティゲーション の実施状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とする。			





(2) 2020 年東京大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.8-3 に示すとおりである。

なお、2020 年東京大会開催後における貴重な景勝地の消滅の有無又は改変の程度については、開催前と同様であるため、調査は開催前に兼ねることとする。

表 5.8-3 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度 ・ 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度 ・ 圧迫感の変化の程度 ・ 緑視率の変化の程度 ・ 景観阻害要因の変化の程度
予測条件の状況	・ 計画建築物の状況(配置、形状、高さ等)
ミティゲーションの実施状況	・ メインアリーナ軒高やデッキレベルを隣接する東京スタジアム(味の素スタジアム)と揃え、スカイラインの調和を図る。 ・ 計画建築物の色彩等については、「東京都景観計画」の景観形成基準の内、地区ごとに色彩の考え方や基準等について定めた「東京都景観色彩ガイドライン」を踏まえ、N7.0及びN7.5 の色彩を主とし、周辺の建築物との調和を図る。 ・ 桜並木を始めとした既存樹木の保全など周辺の緑との調和を図るとともに、3階コンコースの高木や低木・地被類植栽、サブアリーナの屋上緑化、メインアリーナの壁面緑化等により、隣接する西競技場の緑地との連続性を確保した植栽計画とする。 ・ 飛田給からのアプローチに対し、サブアリーナ・プール棟、メインアリーナ棟と段階的に建物高さが高くなる計画とし、かつペデストリアンデッキもセットバックを行い建物の圧迫感を軽減する。 ・ 計画地北側の福祉施設に配慮し、建物の高さを徐々に低くするとともに、セットバックや樹木の設定により圧迫感を軽減する。 ・ 隣接するオープンスペースは積極的に緑化に努める。 ・ 緑化にあたっては、樹種の選定に配慮し、周辺の景観との調和を図るとともに、植物の良好な生育が可能となるよう、植栽地盤を工夫する。

2) 調査地域

調査地域は、計画建築物を眺望することができる計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.8-4(1) (2) に示すとおりである。

表 5.8-4(1) 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		主要な景観の構成要素の改変の程度 及びその改変による地域景観の特性 の変化の程度	代表的な眺望地点からの眺望の変化 の程度
調査時点		2020年東京大会の開催後(平成33年度)とする。	
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の4地点(図5.8-1に示す地点No. 1～4)とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。	
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とする。	
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とする。	

表 5.8-4(2) 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		圧迫感の変化の程度	緑視率の変化の程度	景観阻害要因の変化の程度
調査時点		2020年東京大会の開催後(平成33年度)とする。		
調査地点	予測した事項	予測地点と同様の1地点 (図5.8-2に示す地点No. a)とする。	予測地点と同様の4地点(図5.8-1に示す地点No. 1～4)とする。	
	予測条件の状況	計画地内とする。		
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。		
調査手法	予測した事項	天空写真を撮影し、形態率を算出する方法とする。	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とする。	
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とする。		
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関係資料の整理による方法とする。		

5.9 自然との触れ合い活動の場

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.9-1 に示すとおりである。

表 5.9-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
調査する事項	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の自然との触れ合い活動の場については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、自然との触れ合い活動の状況等を調査する。 ・自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度 ・自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
調査条件の状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の自然との触れ合い活動の場については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、自然との触れ合い活動の状況等に関する基礎条件について調査する。 ・建設機械の稼働の状況 ・工事用車両の走行の状況
ミティゲーションの実施状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の自然との触れ合い活動の場については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、自然との触れ合い活動の状況等に関するミティゲーションの実施状況について調査する。 ・低騒音型建設機械の採用に努める計画とする。 ・仮囲い(高さ 3m)を設置する計画とする。 ・建設機械の集中稼働を行わないよう、建設機械の効率的稼働に努める計画とする。 ・作業時間及び作業手順は、周辺に著しい影響を及ぼさないように、事前に工事工程を十分検討する計画とする。 ・アイドリングストップの提示等を行い、不必要なアイドリングの防止を徹底する計画とする。 ・建設機械の稼働にあたっては、不必要な空ぶかし、急発進等の禁止を徹底させる計画とする。 ・建設機械は定期的に点検整備を行い、故障や異常の早期発見に努める計画とする。 ・騒音・振動の発生を極力少なくするよう、最新の低騒音型建設機械の採用及び低騒音・低振動な施工方法の採用に努める計画とする。 ・現場内のパトロールの中で、建設機械による影響を低減するようミティゲーションの実施状況の確認及び指導を行う計画とする。 ・上記のミティゲーションについては、その遂行を徹底するよう、施工業者に対して指導を行う計画とする。 ・工事用車両に付着した泥土等が場外に飛散しないよう、出入口付近に洗車設備を設けて必要に応じてタイヤ等の洗浄を行う等、土砂・粉じんの飛散防止に努める計画とする。 ・低公害型の工事用車両を極力採用し、良質な燃料を使用するとともに、不必要なアイドリングの防止を徹底する計画とする。 ・工事用車両の出入口付近の路面の清掃に努める計画とする。

2) 調査地域

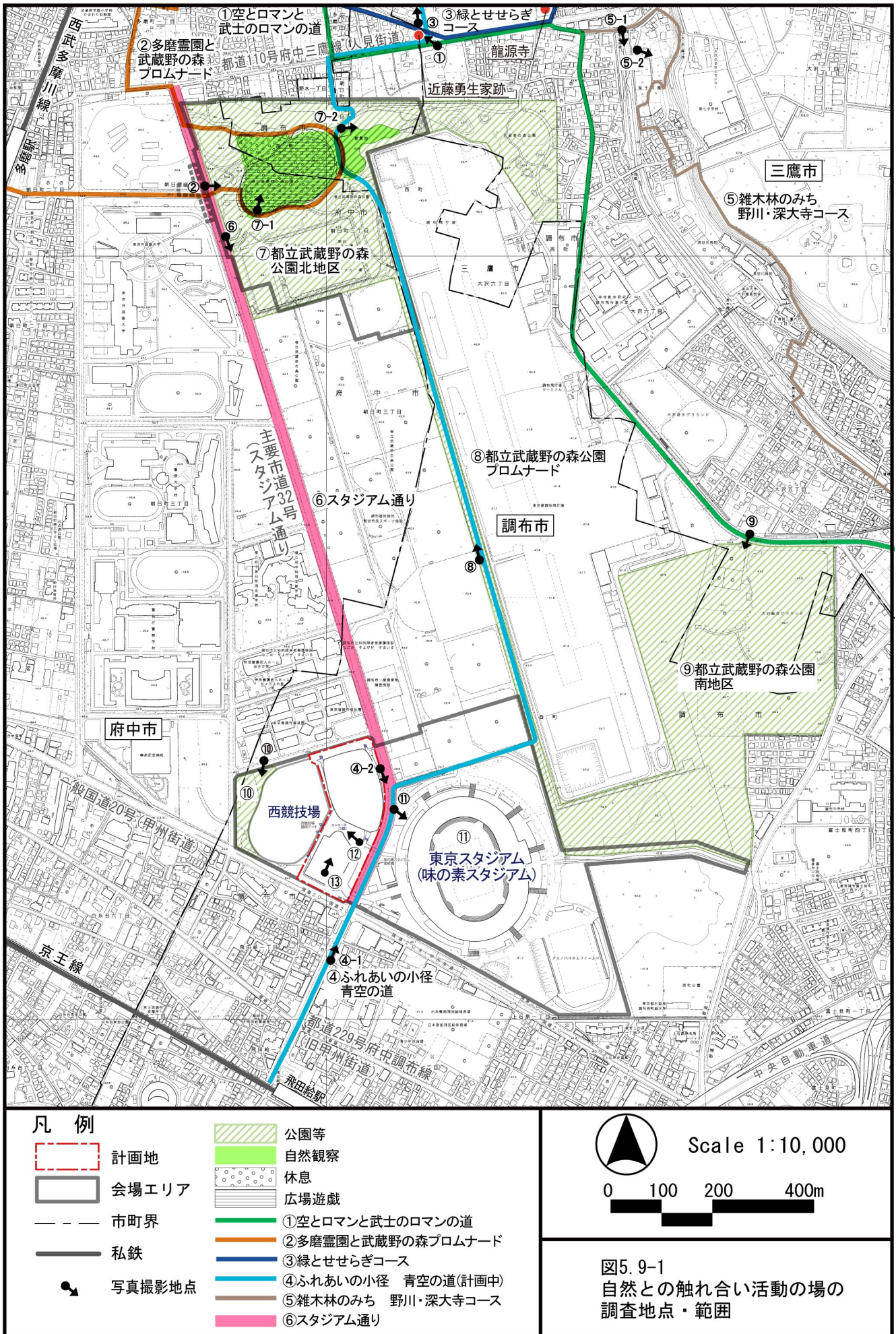
調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.9-2 に示すとおりである。

表 5.9-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		・自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度 ・自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
調査時点		工事の施工中とする。
調査地点	調査する事項	計画地及びその周辺(図5.9-1)とする。
	調査条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	調査する事項	既存資料及び現地調査により、自然との触れ合い活動の状況の整理による方法とする。
	調査条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。



(2) 2020 年東京大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.9-3 に示すとおりである。

表 5.9-3 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 ・自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度 ・自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
予測条件の状況	・施設配置計画 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行い、緑化された空間を整備する。 ・コンコースを利用して南北方向及び東西方向への移動を可能とする歩行者動線を整備することにより、施設利用者、地域住民等が活用できる回遊性が高く、安全で快適な歩行者ネットワークを創出する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.9-4 に示すとおりである。

表 5.9-4 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		・自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 ・自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度 ・自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
調査時点		2020年東京大会の開催後(平成33年度)とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺(図5.9-1)とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	既存資料及び現地調査により、自然との触れ合い活動の状況の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.10 歩行者空間の快適性

(1) 2020 年東京大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.10-1 に示すとおりである。

表 5.10-1 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・緑の程度 ・歩行者が感じる快適性の程度
予測条件の状況	・気象の状況 ・周辺土地利用条件
ミティゲーションの実施状況	・アクセス経路沿いの既存街路樹について可能な限りの保全を図る。 ・その他の都道の街路樹や公園の樹木を適切に維持・管理することにより、夏の強い日差しを遮る木陰を確保するとともに、まとまった緑による気温上昇の抑制効果を高めていく。 ・日陰の確保等歩行者空間の暑さ対策について可能な限りの配慮を行う計画である。

2) 調査地域

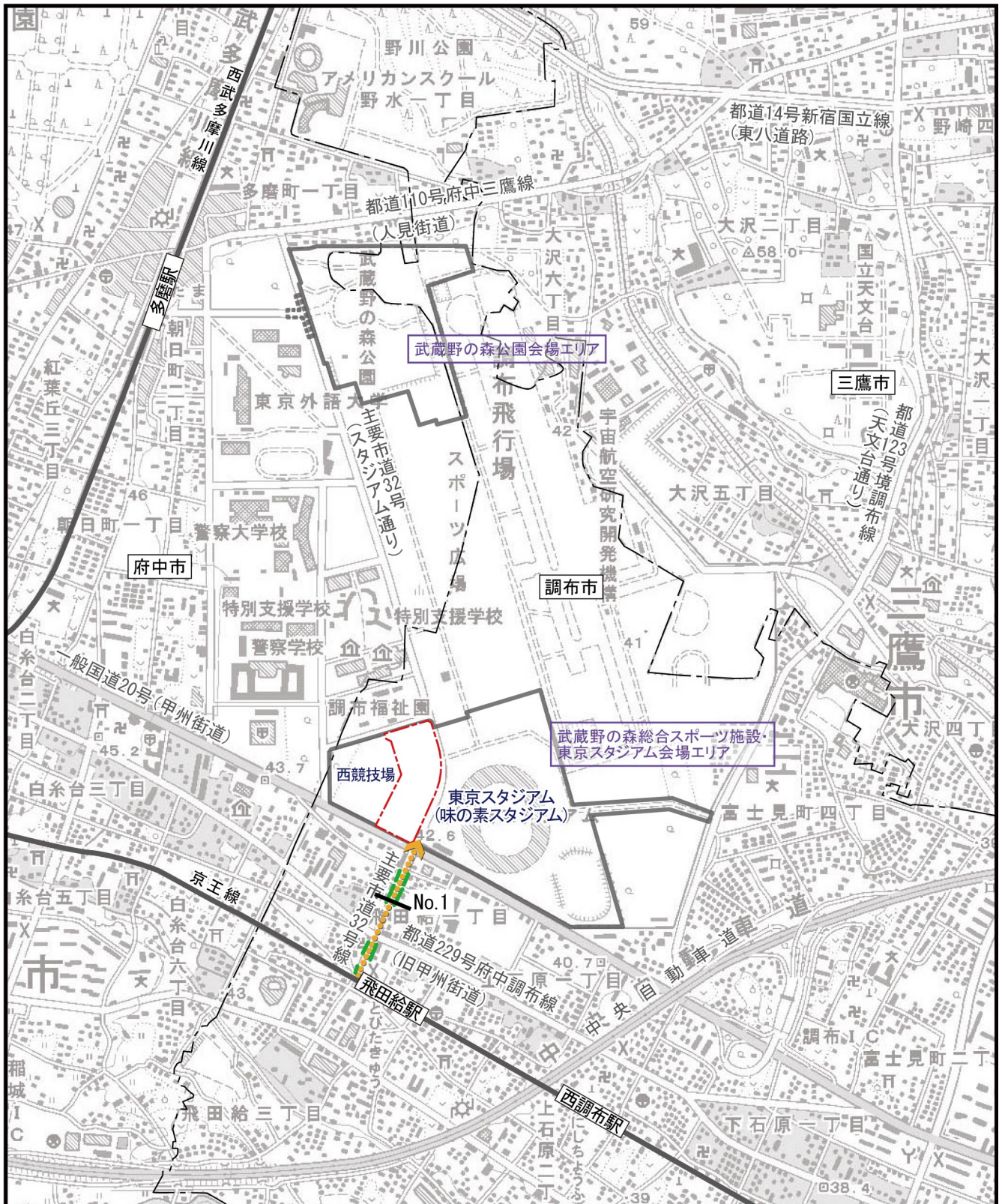
調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.10-2 に示すとおりである。

表 5.10-2 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		緑の程度	歩行者が感じる快適性の程度
調査時点		2020年東京大会の開催後(平成33年度)とする。	
調査地点	予測した事項	公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路(図5.10-1)とする。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における1地点(図5.10-1に示すNo.1)とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における1地点(図5.10-1に示すNo.1)とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における1地点(図5.10-1に示すNo.1)とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	既存資料及び現地調査により、暑さ指数(WBGT)の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	



凡 例



計画地



会場エリア



市町界



私鉄



歩行者動線



街路樹

歩行者が感じる快適性の
程度の調査地点 (No.1)

Scale 1:15,000



図 5.10-1

歩行者空間の快適性の調査地点

5.11 水利用

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.11-1 に示すとおりである。

表 5.11-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・水の効率的利用への取組・貢献の程度
予測条件の状況	・雨水利用設備の状況
ミティゲーションの実施状況	・メインアリーナ屋根に降る雨水を集水し、地下雨水貯留槽へ貯留後、トイレ洗浄水等に使用する計画とする。 ・プール排水は、トイレ洗浄水として再利用する。 ・節水型トイレや、擬音装置を設置する。 ・トイレ手洗器の自動水栓や節水コマを設置する。 ・必要に応じて利用者に対する節水を周知する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.11-2 に示すとおりである。

表 5.11-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		水の効率的利用への取組・貢献の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査地点	予測した事項	計画地内とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 2020 年東京大会の開催後

2020 年東京大会開催後における水利用の状況は、開催前と同様であるため、調査は開催前に兼ねることとする。

5.12 廃棄物

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.12-1 に示すとおりである。

表 5.12-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
調査する事項	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の廃棄物等については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、廃棄物の発生量等を調査する。 ・廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
調査条件の状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の廃棄物等については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、廃棄物の発生量等に関連する基礎条件について調査する。 ・山留工事、掘削工事の実施状況 ・事業計画(施設の用途別延床面積)
ミティゲーションの実施状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の廃棄物等については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、廃棄物の発生量等に関連するミティゲーションの実施状況について調査する。 ・建設副産物の処理にあたっては、リサイクル計画書及びリサイクル報告書を作成し、リサイクル実施状況を整理する。 ・建設廃棄物は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）に基づき、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を利用し、適正な運搬及び処理を行う。 ・工事の施工にあたっては、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）、「東京都リサイクルガイドライン」に基づき策定された東京都環境物品等調達方針（公共工事）（東京都）により環境負荷を低減できる資材等を選定する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地内とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.12-2 に示すとおりである。

表 5.12-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
調査時点		工事の施工中とする。
調査地点	調査する事項	計画地内とする。
	調査条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	調査する事項	関連資料の整理による方法とする。
	調査条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

(2) 2020 年東京大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.12-3 に示すとおりである。

表 5.12-3 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
予測条件の状況	・ 施設の利用者数
ミティゲーションの実施状況	・ 調布市の分別方法に従い、古紙、布、ビン、缶、容器包装プラスチック、牛乳パック、ペットボトルの7種は、資源として分別回収を行う。 ・ 廃棄物の保管等のスペースについては、廃棄物の種類別の収集間隔や収集作業を考慮し、必要かつ十分なスペースの確保を行う。 ・ 施設内のテナントに対して、包装や使い捨て容器利用の削減、リユース食器の利用等の推進を誘導する。 ・ 施設利用者に対して、分かりやすい分別表示を行う。 ・ スポーツ大会、イベントの開催時において発生する廃棄物については、各事業者が事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理を行う必要があるため、大会やイベントの開催事業者への十分な周知を行い、開催事業者が処理・処分を行うように調整する。 ・ 産業廃棄物が発生した場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び東京都廃棄物条例に基づき、収集・運搬・処分の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する。 ・ オリンピックレガシーとなることを踏まえ、施設の運営にあたっては、更なる廃棄物の再資源化を検討していく。

2) 調査地域

調査地域は、計画地内とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.12-4 に示すとおりである。

表 5.12-4 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査地点	予測した事項	計画地内とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5.13 エコマテリアル

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.13-1 に示すとおりである。

表 5.13-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
調査する事項	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前のエコマテリアルについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、エコマテリアルの利用状況等を調査する。 ・エコマテリアルの利用状況等
調査条件の状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前のエコマテリアルについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、エコマテリアルの利用状況等に関連する基礎条件について調査する。 ・環境物品調達方針
ミティゲーションの実施状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前のエコマテリアルについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、エコマテリアルの利用状況等に関連するミティゲーションの実施状況について調査する。 ・建設資材についてエコマテリアルの適用品目があるものについては、適用品目を利用するよう努める計画とする。 ・今後、開発・実用化される素材についても、積極的に利用を努める計画とする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地内とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.13-2 に示すとおりである。

表 5.13-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		エコマテリアルの利用状況等
調査時点		工事の施工中とする。
調査地点	調査する事項	計画地内とする。
	調査条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	調査する事項	関連資料の整理による方法とする。
	調査条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5.14 温室効果ガス

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.14-1 に示すとおりである。

表 5.14-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
調査する事項	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の温室効果ガスについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、温室効果ガスの排出量等を調査する。 ・温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
調査条件の状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の温室効果ガスについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、温室効果ガスの排出量等に関連する基礎条件について調査する。 ・建設機械の稼働の状況 ・工事用車両の状況
ミティゲーションの実施状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の温室効果ガスについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、温室効果ガスの排出量等に関連するミティゲーションの実施状況について調査する。 ・建設機械の稼働にあたっては、アイドリングストップやエンジン回転の抑制など省エネ運転を徹底する他、極力、低燃費の建設機械を使用する等の配慮も行う計画とする。 ・工事用車両の不要なアイドリングの防止を徹底する計画とする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.14-2 に示すとおりである。

表 5.14-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
調査時点		工事の施工中とする。
調査地点	調査する事項	計画地及びその周辺とする。
	調査条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	調査する事項	関係資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。
	調査条件の状況	関係資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関係資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。

(2) 2020 年東京大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.14-3 に示すとおりである。

表 5.14-3 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
予測条件の状況	・ 省エネルギー設備の状況
ミティゲーションの実施状況	・ 武蔵野の森総合スポーツ施設については、設備設置において、恒常的なエネルギー対策（コージェネレーションシステム等）を予定する。 ・ 再生可能エネルギーの利用として、太陽光発電、太陽熱利用、地中熱利用を行う。 ・ Hf 型照明器具の採用等による省エネを行う。 ・ 廃棄物の運搬車両については、廃棄物のストックヤードの設置・運用や、車両の走行時間や走行ルート等を検討し、車両走行による燃料等の消費が少なくなるように配慮を行う。 ・ アイドリングストップやエンジン回転の抑制など省エネ運転を徹底する。 ・ 自然換気や自然採光を考慮する。 ・ 窓に Low-E（複層）ガラスを採用による断熱強化、在室検知システム採用による照明の省エネ、潜熱回収型の高効率温水器採用による給湯に係るエネルギーの省エネ、BEMS 導入による電力デマンド制御など、省エネのための取組を行う。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.14-4 に示すとおりである。

表 5.14-4 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理又は電気・ガス使用量の整理による方法とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5.15 エネルギー

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.15-1 に示すとおりである。

表 5.15-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
調査する事項	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前のエネルギーについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、エネルギー使用量等を調査する。 ・エネルギーの使用量及びその削減の程度
調査条件の状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020 年東京大会の開催前のエネルギーについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、エネルギー使用量等に関連する基礎条件について調査する。 ・建設機械の稼働の状況 ・工事用車両の状況
ミティゲーションの実施状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前のエネルギーについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、エネルギー使用量等に関連するミティゲーションの実施状況について調査する。 ・建設機械の稼働にあたっては、アイドリングストップやエンジン回転の抑制など省エネ運転を徹底する他、極力、低燃費の建設機械を使用する等の配慮も行う計画とする。 ・工事用車両の不要なアイドリングの防止を徹底する計画とする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.15-2 に示すとおりである。

表 5.15-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		エネルギーの使用量及びその削減の程度
調査時点		工事施工中とする。
調査地点	調査する事項	計画地及びその周辺とする。
	調査条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	調査する事項	関係資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。
	調査条件の状況	関係資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関係資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。

(2) 2020 年東京大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.15-3 に示すとおりである。

表 5.15-3 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・エネルギーの使用量及びその削減の程度
予測条件の状況	・省エネルギー設備の状況
ミティゲーション の実施状況	・武蔵野の森総合スポーツ施設については、設備設置において、恒常的なエネルギー対策（コージェネレーションシステム等）を予定する。 ・再生可能エネルギーの利用として、太陽光発電、太陽熱利用、地中熱利用を行う。 ・Hf 型照明器具の採用等による省エネを行う。 ・廃棄物の運搬車両については、廃棄物のストックヤードの設置・運用や、車両の走行時間や走行ルート等を検討し、車両走行による燃料等の消費が少なくなるように配慮を行う。 ・アイドリングストップやエンジン回転の抑制など省エネ運転を徹底する。 ・自然換気や自然採光を考慮する。 ・窓に Low-E（複層）ガラスを採用による断熱強化、Hf 型照明器具の採用や在室検知システム採用による照明の省エネ、潜熱回収型の高効率温水器採用による給湯に係るエネルギーの省エネ、BEMS 導入による電力デマンド制御など、省エネのための取組を行う。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.15-4 に示すとおりである。

表 5.15-4 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		エネルギーの使用量及びその削減の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査地点	予測した事項	計画地内とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理又は電気・ガス使用量の整理による方法とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5.16 土地利用

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.16-1 に示すとおりである。

表 5.16-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 未利用地の解消の有無及びその程度
予測条件の状況	・ 土地利用の状況
ミティゲーションの実施状況	・ 「調布基地跡地利用計画」に基づき、調布飛行場跡地の未利用地に施設を建設する。 ・ コンコース設営により、隣接する東京スタジアム（味の素スタジアム）及び西競技場と一体整備する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.16-2 に示すとおりである。

表 5.16-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		未利用地の解消の有無及びその程度
調査時点		施設完成後とする。
調査地点	予測した事項	計画地内とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.17 安全

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.17-1 に示すとおりである。

表 5.17-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・危険物施設等からの安全性の確保の程度 ・移動の安全のためのバリアフリー化の程度 ・電力供給の安定度
予測条件の状況	・計画地周辺の危険物施設等の状況 ・施設内及び最寄りの鉄道駅から会場までの歩行者経路におけるバリアフリー施設の状況 ・電力供給施設の状況
ミティゲーションの実施状況	・不特定多数の人が利用する部分の廊下、スロープ、階段、エレベーター、建築物の出入口、観客席等に対して、原則として調布市福祉のまちづくり条例（平成 9 年調布市条例第 5 号）同等以上の対応を行う。 ・階段には、点状ブロックを配置し、手すり端部には点字を施す。 ・ストレッチャー対応のエレベーターを 3 カ所に設置する。 ・子ども連れに配慮したトイレ、オストメイト・子ども連れ・大型ベッド使用者に配慮したフルスペックを備えたトイレを設置する。 ・建物の出入口付近の 8 カ所に、車いす用駐車場を設置する。 ・音声情報提供席を 70 席設置する。 ・計画建築物への電力引込には、普通高圧 6.6kV の本予備電源 2 回線を引き込む。 ・予備電源、非常電源、保安電源としての利用を目的とした「非常用発電設備」を設置する。 ・電力監視設備を中央監視から独立させて設置する。 ・電力監視と中央監視（機械設備）の相互監視により、万が一のトラブル時にも監視を可能とする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

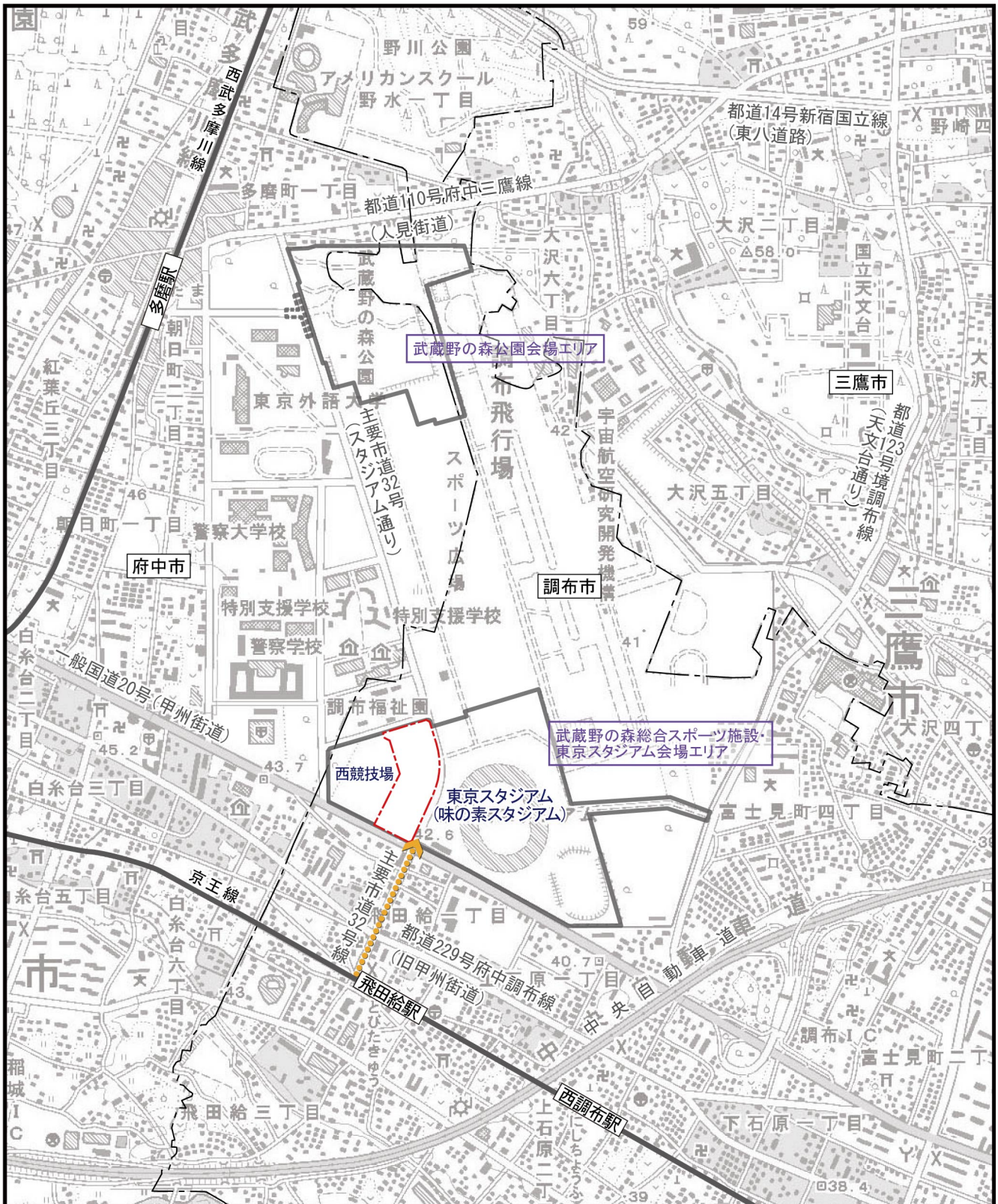
調査手法は、表 5.17-2 に示すとおりである。

表 5.17-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		危険物施設等からの安全性の確保の程度	移動の安全のためのバリアフリー化の程度	電力供給の安定度
調査時点		施設完成後とする。		
調査地点	予測した事項	計画地周辺とする。	計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路(図 5.17-1)とする。	計画地内とする。
	予測条件の状況	計画地周辺とする。	計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路(図 5.17-1)とする。	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地周辺とする。	計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路(図 5.17-1)とする。	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理とする。	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とする。	関連資料の整理とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理とする。	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とする。	関連資料の整理とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理とする。	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とする。	関連資料の整理とする。

(2) 2020 年東京大会の開催後

2020 年東京大会開催後における安全の状況は、開催前と同様であるため、調査は開催前に兼ねることとする。



凡 例



計画地



会場エリア



市町界



私鉄



歩行者動線
(移動の安全のためのバリアフリー化
の程度に係る調査範囲)



Scale 1:15,000

0 150 300 600m

図 5.17-1 安全の調査範囲

5.18 消防・防災

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.18-1 に示すとおりである。

表 5.18-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・耐震性の程度 ・防火性の程度
予測条件の状況	・耐震設備の状況 ・防災設備の状況
ミティゲーションの実施状況	・建築基準法、東京都建築安全条例、消防法及び東京都火災予防条例に準拠する耐震基準・防火基準を満たした建築物とする。 ・災害時の避難経路は、容易に外部に避難できる計画とする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.18-2 に示すとおりである。

表 5.18-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		・耐震性の程度 ・防火性の程度
調査時点		施設完成後とする。
調査地点	予測した事項	計画地内とする。
	予測条件の状況	計画地内とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 2020 年東京大会の開催後

2020 年東京大会開催後における消防・防災の状況は、開催前と同様であるため、調査は開催前に兼ねることとする。

5.19 交通渋滞

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.19-1 に示すとおりである。

表 5.19-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
調査する事項	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の交通渋滞については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり交通渋滞の変化の状況等を調査する。 ・工事用車両の走行に伴う交通渋滞の変化の程度
調査条件の状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の交通渋滞については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、交通渋滞の変化の状況等に関連する基礎条件について調査する。 ・工事用車両の走行の状況 ・一般車両の状況
ミティゲーションの実施状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の交通渋滞については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、交通渋滞の変化の状況等に関連するミティゲーションの実施状況について調査する。 ・工事用車両の集中稼働を行わないよう、工事工程の平準化に努める計画とする。 ・工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の車両の通行に支障を与えないように配慮する計画とする。 ・工事用車両の運転者に対し、周辺市街地での待機や違法駐車等の交通の円滑化を妨げる行為を行わないよう指導を徹底する計画とする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.19-2 に示すとおりである。

表 5.19-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴う交通渋滞の変化の程度
調査時点		工事の施工中とする。
調査地点	調査する事項	工事用車両走行ルート上の 2 地点（図5.1-2(p.31参照)に示す地点No.3～4) とする。
	調査条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	調査する事項	ハンドカウンタによる計測（大型車、小型車の 2 車種分類）
	調査条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5. 20 公共交通へのアクセシビリティ

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5. 20-1 に示すとおりである。

表 5. 20-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
調査する事項	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の公共交通へのアクセシビリティについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり公共交通へのアクセシビリティの変化の状況等を調査する。 ・工事用車両の走行に伴う公共交通へのアクセシビリティの変化の程度
調査条件の状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の公共交通へのアクセシビリティについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、公共交通へのアクセシビリティの変化の状況等に関連する基礎条件について調査する。 ・工事用車両の走行の状況 ・アクセス経路における歩車道線分離の状況
ミティゲーションの実施状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の公共交通へのアクセシビリティについては予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、公共交通へのアクセシビリティの変化の状況等に関連するミティゲーションの実施状況について調査する。 ・計画地周囲の歩道等を占有する工事を行う場合には、交通整理員の配置等を計画とする。 ・工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の利用者も含めた一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮する計画とする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5. 20-2 に示すとおりである。

表 5. 20-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴う公共交通へのアクセシビリティの変化の程度
調査時点		工事の施工中とする。
調査地点	調査する事項	計画地及びその周辺（図4. 2-6(1) (p. 15参照)）とする。
	調査条件の状況	計画地及びその周辺（図4. 2-6(1) (p. 15参照)）とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺（図4. 2-6(1) (p. 15参照)）とする。
調査手法	調査する事項	関連資料の整理による方法とする。
	調査条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5. 21 交通安全

(1) 2020 年東京大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5. 21-1 に示すとおりである。

表 5. 21-1 調査事項(2020 年東京大会の開催前)

区 分	調査事項
調査する事項	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の交通安全については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、交通安全の変化の状況等を調査する。 ・工事用車両の走行に伴う交通安全の変化の程度
調査条件の状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の交通安全については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、交通安全の変化の状況等に関連する基礎条件について調査する。 ・工事用車両の走行の状況 ・アクセス経路における歩車道線分離の状況
ミティゲーションの実施状況	本事業では、評価書作成時点において既に工事着工しているため、評価書では2020年東京大会の開催前の交通安全については予測事項としていないが、フォローアップでは以下のとおり、交通安全の変化の状況等に関連するミティゲーションの実施状況について調査する。 ・工事用車両の走行に際しては、規制速度を遵守し、安全走行に努める計画とする。 ・工事用車両の運転者に対し、周辺市街地での待機や違法駐車等の交通の円滑化を妨げる行為を行わないよう指導を徹底する計画とする。 ・計画地周囲の歩道等を占用する工事を行う場合には、交通整理員の配置等を計画とする。 ・計画地からの工事用車両の出入りに際しては交通整理員を配置し、一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮する計画とする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.21-2 に示すとおりである。

表 5.21-2 調査手法(2020 年東京大会の開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴う交通安全の変化の程度
調査時点		工事の施工中とする。
調査地点	調査する事項	計画地及びその周辺（図4.2-6(1) (p.15参照)）とする。
	調査条件の状況	計画地及びその周辺（図4.2-6(1) (p.15参照)）とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺（図4.2-6(1) (p.15参照)）とする。
調査手法	調査する事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	調査条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 2020 年東京大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5. 21-3 に示すとおりである。

表 5. 21-3 調査事項(2020 年東京大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 2020年東京大会の実施に伴う、会場等の周辺及び会場等までのアクセス経路における歩車動線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度
予測条件の状況	・ アクセス経路における歩車道線分離の状況
ミティゲーションの実施状況	・ 一般国道20号（甲州街道）に架かる横断歩道橋から、計画建築物の3階床レベルと東京スタジアム（味の素スタジアム）の接続部であるペDESTリアンデッキに直接アクセスできる構造とすることで、歩車動線の分離を図る。 ・ 大規模スポーツ大会及びイベント興行に際しては、必要に応じて交通整理員を配置し、交通安全の確保に努める。 ・ 隣接する東京スタジアム（味の素スタジアム）等の施設管理者等と十分に連携を図り、より一層の安全の確保に努める。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5. 21-4 に示すとおりである。

表 5. 21-4 調査手法(2020 年東京大会の開催後)

調査事項		2020年東京大会の実施に伴う、会場等の周辺及び会場等までのアクセス経路における歩車動線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.22 その他の項目に係るミティゲーションの実施状況

その他の項目に対してのミティゲーションについて以下に記載する。

(1) 土壌

本事業では既に工事着工しており、土地の改変にあたっては、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（平成 12 年東京都条例第 215 号）に基づき土地利用の履歴等調査を実施した結果、過去に有害物質取扱事業場が存在したという履歴はないが、工事の実施に伴い新たに汚染土壌が確認された場合には、フォローアップ報告書において明らかにする。

5.23 フォローアップ報告書の提出時期

フォローアップ報告書の提出時期及び内容は、表 5.23-1 に示すとおりである。

5. フォローアップ計画

表 5.23-1(1) フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期 (2020 年東京大会の開催前)

年・月 工事及び調査内容			工事着工からの月数		平成25年度												平成26年度												平成27年度												平成28年度												平成29年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
					1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
工事工程	メインアリーナ棟	準備工事																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

表 5.23-1(2) フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期 (2020 年東京大会の開催中及び開催後)

			年・月	平成31年度						平成32年度						平成33年度						平成34年度																						
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
2020年東京オリンピック競技大会																																												
2020年東京パラリンピック競技大会																																												
フォローアップ調査工程	大気等	大会の開催中	関連車両の走行																																									
			熱源施設の稼働																																									
			ミティゲーション措置																																									
		大会の開催後	関連車両の走行																																									
			熱源施設の稼働																																									
			ミティゲーション措置																																									
	生物の生育・生息基盤	大会の開催後	賦存地の改変の程度																																									
			生育・生息基盤の創出の程度																																									
			ミティゲーション措置																																									
	水循環	大会の開催後	地下水涵養能の変化の程度																																									
			地下水位の変化の程度																																									
			ミティゲーション措置																																									
	生物・生態系	大会の開催後	植物・動物の変化の程度																																									
			環境・生態系の変化の程度																																									
			ミティゲーション措置																																									
			緑	大会の開催後	植栽内容の変化の程度																																							
	緑の量の変化の程度																																											
	ミティゲーション措置																																											
	騒音・振動	大会の開催中	関連車両の走行																																									
			ミティゲーション措置																																									
	景観	大会の開催後	地域景観の変化の程度																																									
			眺望の変化の程度																																									
			圧迫感の変化の程度																																									
			緑視率の変化の程度																																									
			景観阻害要因の変化の程度																																									
			ミティゲーション措置																																									
	自然との触れ合い活動の場	大会の開催後	触れ合い活動の場の变化の程度																																									
			阻害又は促進の程度																																									
			利用経路に与える影響の程度																																									
			ミティゲーション措置																																									
	歩行者空間の快適性	大会の開催中	緑の程度																																									
			歩行者が感じる快適性の程度																																									
			ミティゲーション措置																																									
		大会の開催後	緑の程度																																									
	歩行者が感じる快適性の程度																																											
	ミティゲーション措置																																											
	水利用	大会の開催中	取組・貢献の程度																																									
			ミティゲーション措置																																									
	廃棄物	大会の開催中	廃棄物の排出量等																																									
			ミティゲーション措置																																									
		大会の開催後	廃棄物の排出量等																																									
	ミティゲーション措置																																											
	温室効果ガス	大会の開催中	温室効果ガスの排出量等																																									
			ミティゲーション措置																																									
		大会の開催後	温室効果ガスの排出量等																																									
	ミティゲーション措置																																											
	エネルギー	大会の開催中	エネルギーの使用量及びその削減の程度																																									
ミティゲーション措置																																												
大会の開催後		エネルギーの使用量及びその削減の程度																																										
	ミティゲーション措置																																											
安全	大会の開催中	安全性の確保の程度																																										
		バリアフリー化の程度																																										
		電力供給の安定度																																										
		ミティゲーション措置																																										
消防・防災	大会の開催中	耐震性の程度																																										
		防火性の程度																																										
		ミティゲーション措置																																										
公共交通のアクセシビリティ	大会の開催中	アクセシビリティの変化の程度																																										
		ミティゲーション措置																																										
交通安全	大会の開催中	交通安全の変化の程度																																										
		ミティゲーション措置																																										
	大会の開催後	交通安全の変化の程度																																										
ミティゲーション措置																																												
報告書提出時期				大会開催後																																								

注)2020 年東京大会の開催中のフォローアップ計画は、大会開催中の環境影響評価後に検討する。

